

巨大卵巣のう腫

閉経後や高齢者 健診重要

心身健康

ドクターに聞く

産婦人科医
今井篤志さん

松波総合病院
腫瘍内分泌センター長
(羽島郡笠松町田代)



卵巣は子宮の左右に1個ずつあり、母指(親指)ぐらいの大きさです。その名の通り、無数の卵を抱える巣です。妊娠に備えて子宮の環境を整えたり、女性らしさをつかさどったりする女性ホルモンを産生します。卵巣は腫瘍が発生しやすい臓器です。腫瘍内に液体(粘液や脂肪など)がたまって風船が膨らんだような形の病変が形成される「卵巣のう腫」と、しこり

のような病変を形成する「充実性腫瘍」に分けられます。卵巣のう腫の約90%が良性で約10%が悪性です。閉経後は婦人科を受診するきっかけがなくなり、卵巣のう腫が巨大化するまで気付かないことがあります。卵巣のう腫はある程度の大きさになるまでは無症状のことが多く、日常生活に支障を来すことはまれです。月経も順調なことがほとんどです。子宮がん検



診や内科などを受診した際に偶然、卵巣の腫大が発見されることも少なくありません。下着や衣服のウエストがきつくなったことに気付いて受診し、診断される場合もありますが、太ったためだと思い込み、そのままにしてしまう人も多いのが現実です。特に、容姿に無頓着になつた世代や高齢者では、医療機関受診の機会が激減し、巨大化してしまうことが多々あります。写真は長径20センチ以上と巨大化した一例です。下腹部から臍上を

越えて横隔膜直下まで成長した60代の方の例です。

卵巣のう腫が巨大になると、腹腔内圧が上昇し横隔膜を頭側に押し上げます。胸腔は肋骨に囲まれており、腹腔に比べ圧力の逃げ場がありません。その結果、心血管系および呼吸器系に悪影響を及ぼすようになりま

す。また、膀胱や直腸を圧迫して頻尿や便秘を生じることや、リンパ管や静脈を圧迫し下肢の末端から心臓への静脈血の戻りが妨げられ下肢の浮腫を来しま

す。腫瘍の被膜が破綻すると、激しい下腹痛が出現し緊急手術を要することもあります。

卵巣のう腫は大半が良性ですが、薬物療法で治癒することはありませ

す。手術前の画像検査(CT、MRI、超音波検査)では良性

・悪性の区別が困難なことがあります。手術中に、採取した組織の一部を顕微鏡で確認する術中迅速病理診断によって、手術の範囲や方法を判断することがありますが、最終的な確定診断は卵巣のう腫全体の詳しい病理診断に委ねられます。

巨大卵巣のう腫は良性であっても、手術中あるいは術後にト

ラブルが起こることがあります。術中の腫瘍による圧迫が摘出によって、急激に解除された

後に起こる急性循環不全や術後の肺塞栓症・肺水腫などのリスクが高いといわれています。特に適応力の予備能が衰えた閉経後や高齢者では要注意です。かかりつけ医を持ち、定期的に医療に相談できる場合は小さなサイズのうちに見つかります。突然巨大な卵巣のう腫が発見されて途方に暮れることはありません。大事に至らないためにも、定期的な健診は重要です。